嵐山花五郎

帝キネ時代映畫

原作者　上島量
監督者　江後岳翠
撮影者　鷲田誠

――主要役割――

嵐山花五郎　市川百々之助
流星櫓次　東良之助
松坂屋新三郎　清水隆之助
目明し源藏　嵐璃巫兒
幸手の吉藏　川崎猛夫
花五郎乾分千太　柳瞳
郡勘太夫　喜多見順
村役彌作　片岡童十郎
村役喜六　尾上松次郎
同名主庄左衛門　岩井竹緑
同萬右衛門　實川延笑
約堰亭主善兵衛　中村翫曉
源藏乾分政吉　富樫卯多術門
同文次　大久保光三郎
同光吉　秋葉要之助
櫓次乾分辰藏　大谷卓三
　　阪井敬二郎
同多吉　安井仙次郎
同大政　小阪信夫
同銀助　木村政吉
小雪（櫓次妹）　生野初子
秀勇（彌助姪）　望月曉子
胡蝶　淺間百合枝

解説――江後岳翠氏の「鼠族」に次ぐ作品である。

略筋――大利根の上流松代村に於ける流星櫓次と幸手の吉藏の爭ひは遂に血の雨を降す迄に至つた、吉藏から賣られた喧嘩を買つて散々の恥辱を受けた櫓次は危くも江戸から歸つて來た嵐山花五郎に救はれた。

花五郎――彼は平和を求めて安住の地故郷へ歸り來たのであつた。吉藏を仆した花五郎の名聲に怖れを抱いた櫓次は妹小雪を郡奉行勘太夫の愛妾となしその權勢を笠に横暴を働くのだつた。横暴は日益に募り遂に近郷の村役名主は連名で櫓次追放の嘆願書を奉行に差出したが村役彌作は反つて櫓次、小雪の惡企みに投獄された。

又櫓次は松坂屋新三郎と相思の藝者胡蝶を拉らつた。花五郎は默視するに忍ずの義侠心は昂然と燃え、胡蝶を奪い返し櫓次を懲らしたが櫓次は反つて小雪と計り花五郎を欺いて不淨繩をかけ非道にも打首にせんとした。凄氣漲る一刹那である。花五郎や如何に？村役彌作の安否を氣付ふ秀勇!!果して事件はどう轉回するであらうか。

寫眞

「嵐山花五郎」帝キネ江後岳翠作品、右より生野初子と市川百々之助。